

そよかぜ

SOYOKAZE

第15号
2025年3月発行

～向こう三軒両隣り、地域のチカラが身を守る～

災害時の被害を軽減するために「自助・共助・公助」はいわゆる3本の矢です。自助は私たち一人ひとりが自ら取り組むこと。共助は地域や身近にいる人同士と一緒に取り組むこと。公助は国や地方公共団体（消防や警察など）が取り組むことです。

性別や世代を超えて、私たちを守る取組みを考えていくために、江面地区女性防災クラブと南三丁目自治会自主防災会の方や、能登半島地震の被災地支援に参加した久喜市役所危機管理課の職員の方にお話を伺いました。

ぬき取ってお読みください。

能登半島地震の被災地支援

この方に聞きました

久喜市は埼玉県支援チームとして、2月12日から石川県七尾市で被災地支援に入り、支援物資の運搬や避難所運営の補助（ごみ処理、掃除、暖房の燃料補充など）を担当しました。当時の担当エリアはブロック塀が倒れたり、道路が隆起していたものの、電気・ガスも復旧し、自宅に戻った人が多く、避難所利用者は少ない状況でした。しかし、断水の影響が大きく、給水や支援物資の配給も続いていました。



久喜市危機管理課
かとう しゅうと
加藤 柊斗 さん



被災地支援の現場で感じたことはありますか？

在宅避難や自主避難所の方々へは、給水や支援物資の配給の情報や自主防災組織などが中心となって、地域へ伝達していました。

お互いの顔を知っているから、被災者同士や支援者との交流にも積極的で、被災者の表情は想像より明るかったです。他の地域でニュースになっていた窃盗や性被害等の犯罪も担当エリアでは無かったと聞きました。

地域に信頼できる情報伝達網があることで重要な情報を皆が正確に、手にすることができていたんですね！



お互いの顔がわかることで災害時の心配事「犯罪」への不安や「孤独感」が低減されていたんですね！



久喜市防災アプリ
防災行政無線の内容、発令された避難情報、避難所開設状況や混雑状況など防災に役立つ情報を確認することができます！

アプリダウンロードはこちら↓



iOS
(App Store)

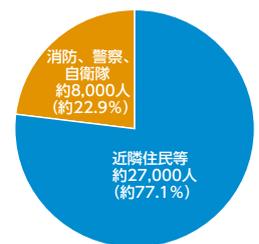


Android
(Google Play)

阪神・淡路大震災や東日本大震災では、**自分自身、住民同士（自助、共助）による救助が約8割だったという事実**があります。大災害など全員が被災する時は消防、市、警察（公助）の手が行き届かない場合が多いのです。

自主防災組織を含め、地域の人や建物、地形などの特性に寄り添った迅速な対応ができる人が増えることで、災害時の被害が少しでも減らせると考えられます。

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



出典：河田恵昭(平成9年)「大規模地震災害による人的被害の予測」自然科学第16巻第1号より内閣府作成(平成28年版防災白書特集「未来の防災」掲載)

NEXT『地域のチカラ』を育てる久喜市民をご紹介します！

地域のチカラ！

江面地区女性防災クラブ

この方に聞きました



江面地区女性防災クラブ委員長
おがわら ちよこ
小河原 千代子 さん

私が所属する江面地区女性防災クラブは今年で結成から22年になります。結成は消防団からの働きかけによるものでした。公的機関だけでの予防努力では、火災減少への道が難しかったためです。火災の約6割が建物火災とされており、その半数以上が住宅火災によるもので、近年では住民自身が初期消火を務めることも強く求められるようになりました。当クラブは、行政機関や防災関係機関と連携し、各専門的指導や助言を受けながら活動しております。現在18名が所属しており、私が委員長を務めております。

※このインタビューは令和6年12月時点のものです

これまでの活動について

女性防災クラブの活動の根底にあるものは、火災予防を日常の中で意識するというのですが、実際に災害が起こった時に少しでも早く行動に移せるように、その知識を頭の片隅に置いておくため、防災訓練にも取り組んでおります。

例えば、1年に1回行う初期消火訓練では消火に適切な距離をとることや、炎を拡散させない安全な消火の方法などを学んでいます。また久喜市が主催する防災訓練では、地域住民の方も参加しており、当クラブは応急手当の方法や、ゴミ袋を使ったポンチョの作り方など、参加者へのサポートを行います。

他にも、市の生涯学習出前講座を活用した研修会の開催や、AEDマップの作成などに取組みました。特にAEDは人命に関わることなので、その最新の位置情報を知り得ることは大変重要でした。

また食に通じることとして、様々な方法の炊き出し訓練も行っております。今後も防災への知識を少しでも深めていけるよう、市主催の自主防災組織リーダー養成指導員の研修会に参加するなどして得た知識をメンバーと情報共有していきます。



▲防災訓練でポンチョの作り方を実演

市の出前講座等を使って防災について自ら学んで備えておくことも「自助」、学んだことを周りに伝えていくことで「共助」につながっていくのですね。



▲江面地区女性防災クラブで作ったAEDマップ

無理なく楽しい活動を広げる

女性防災クラブの活動を行っていくためには、このクラブに所属して頂くことが必要ですが、そのご家族の方のご理解もあってこそだと思っています。またこの活動を広めていくには地域住民の皆様の防火・防災に対する関心と理解を深めていくことも非常に大切だと思っています。

安全に生活できることが一番ですが、万一火災や災害が発生した時に、何ができるかできないか、その引き出しを持つことが、自身や大切な人、また近隣の方々の命を救うことのできる道になるかもしれないと考えています。そのために、少しでも備えられるよう、このクラブ活動をこれからも楽しく続け、尚かつ広めていくことを目標にしております。

自身や大切な人達、地域を守りたいという思いはみなさんが持っているのではないのでしょうか。周囲の理解を得ることで協力者も増えていく。そして、続けていくためには活動を楽しいものにすることが大切なのですね。



いつも防災

市HPでは家庭や地域のできる防災をわかりやすく伝える埼玉県作成の「防災マニュアルブック」を公開しています。ぜひご一読ください。

詳細は市HPにて確認できます⇒



生涯学習出前講座

市職員等が講師として出向いてお話しする出前形式の講座です。

市内の方で構成された原則10名以上の団体であれば、講師料無料で受講できます。

詳細は市HPにて確認できます⇒



チェック

2



チェック

地域のチカラ！

南三丁目自治会自主防災会

この方に聞きました

南三丁目は約350世帯で構成され、昔からある住宅街で自治会活動が活発です。

私は2年前の区長就任と同時に南三丁目自治会自主防災会の会長に就き、副会長の和賀さんと共に活動しています。自主防災会と自治会の顔ぶれはほぼ同じで、自治会のこれまでの会長や副会長、元区長が自主防災会の顧問となっており、歴史的なものは顧問に聞けば分かる体制になっています。

自主防災会の役員は15名のうち3名が女性です。顔見知りだからこそ、男女問わず色々な意見が出るようになってきました。防災備品のリストは女性も一緒に考えて必要なものを揃えています。月2回は防災倉庫の発電機など設備の点検も実施しています。



南三丁目自治会自主防災会会長
すがわら かずみ
菅原 一美 さん

※このインタビューは令和6年12月時点のものです



日々の活動で広がる地域の輪

毎週水曜日、小学校の登下校の見守りを交代で行っています。他にも月2回、南三丁目と近隣の女性たちが集まり、お楽しみ会を開いています。また、年2回の道路清掃もしています。

様々なイベントを通じて皆が顔見知りになって、いざという時は協力できる地域体制作りに努めています。まずはお互いの顔を覚え合い、つながりを作っていく。被災時に避難所を使うようになってからも面識があることでスムーズに運営できるというわけです。

日頃からの地域のつながりは、防災活動だけではなく、不審者情報の共有などの防犯活動にも効果があったとのことでした。それぞれの地域の活動に合ったつながりの広げ方ができるといいですね。



地域で取り組む防災訓練

自主防災会の防災訓練を年1回秋に実施しています。参加者は大人と子どもあわせて大体60名くらいです。消防車と呼んだり、豚汁等の炊出し訓練も行います。子どもたちにも楽しんで参加してもらえるようにお菓子も配っています。

皆が参加しやすいように、普段やっていることから活躍の場を作っています。それぞれが得意な分野から協力してもらえるようにしています。

また、南三丁目では黄色いリボンを各世帯に配布して、被災時に無事な世帯は玄関に吊るすなど安否確認に役立てています。防災訓練時にも活用し、訓練情報が行き渡っているかの確認もしています。



▲炊き出しの試食会の様子



今回のインタビューでは、他にも避難所へ安全に行くルートの確認や、避難経路上の危険個所の洗い出しなど、地域の特性に添った平時からの備えのお話も伺えました。

また、活動には年齢や性別の垣根なく色々な人に参加してもらうための工夫がありました。地域の皆がつながっていると、いざという時にとても生きてくるのだと感じました。



自主防災組織（自主防災会）

自主防災組織とは市民が地域の防災対策を確立するため、防災活動を行う団体のことで、現在、久喜市内の自主防災組織の数は173組織。市では、市民の防災意識の高揚及び自主防災活動の技術向上のため、自主防災組織に補助金を交付しています。

詳細は市HPにて確認できます→



LGBTQ+ 当事者の方たちの避難所生活での困りごとと対応策

避難所に来る人たちも、一人ひとり違って、必要なサポートも異なります。自分がLGBTQ+であることを周りの人に話すかどうかは、人それぞれです。誰にも知られたくない人もいれば、仲の良い人にだけ話している人もいます。誰もが尊厳を持って、安心して生き延びられるように、多様な性のあり方を知り、お互いを尊重する気持ちを忘れないようにしましょう。



困りごと

対応策

避難所で名簿を記入するとき、性別欄に「戸籍上の性別」を書くのか、「自分の性自認」を書くのか、迷い、抵抗を感じる。
生理用品や髭剃りなど、男女別に用意されている物資を受け取るのが難しい場合がある。自分の性自認や性表現に合った物資をもらいに行ったら、周囲に不審に思われた。



性別を記入することをためらう人もいます。性別欄は「任意・自由記述」とすると安心できます。



見た目と性自認が違う方もいます。差別せず、そのような方々がいる、との認識を皆でもちましよう。また、個別に届けられる仕組み作りも大切です。

参考文献：岩手レインボー・ネットワーク「にじいる防災ガイド」

～ 性別や年齢にとらわれることなく、互いに理解し合いましょ～

LGBTQ+専門相談案内

■にじいる県民相談(埼玉県性的マイノリティ県民相談)

性的指向や性自認に関する悩みについて、県民の方が相談できる相談窓口です。電話とLINEでお受けします。相談無料
☎ 0570-022-282
LINE <https://lin.ee/KDRR4QM>
◎毎週土曜日(年末年始を除く)18時～22時



■埼玉弁護士会 LGBT法律相談(電話相談)

当事者だけでなく、その家族や雇用主、担任教師などの相談にも応じます。(相談無料・匿名相談可能・事前予約は不要)
☎ 048-861-0901
◎毎月第1・第3水曜日(祝日・年末年始を除く)
10時～12時・13時～16時

■よりそいホットライン(一般社団法人社会的包摂サポートセンター)

どんなひとの、どんな悩みにもよりそって、一緒に解決する方法を探します。(相談料・通話料は無料です)
☎ 0120-279-338 ガイダンスに沿って4を押してください。
FAX 0120-773-776 (通話による聞き取りが難しい方)
◎24時間年中無休

女性の悩み(カウンセリング)相談

「女性の悩み相談」では、配偶者等からの暴力に関する事、家族・夫婦に関する事、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について相談できます(要予約)。相談の費用は**無料**です。また、相談に関する秘密は固く守ります。

相談日程 第1・第3金曜日

面接、電話、オンライン相談
相談会場 久喜市役所(本庁舎)
相談時間 1人**50分**

対象 市内在住・在勤・在学の女性
相談員 女性カウンセラー(臨床心理士)

申込方法 **相談は予約制**です。上記2次元コードを読み取るか、人権推進課へお問い合わせください。



男女共同参画情報紙「そよかぜ」のバックナンバーはコチラからご覧いただけます。 ⇒⇒⇒



編集後記

「そよかぜ」は、市民ボランティアの編集員の方に企画・取材・編集していただいています。

未来に向けてさまざまな災害を乗り越えていく為にも、自助共助は欠かせない課題です。

私は、自主防災会メンバーとして地域の皆さんと活動していますが、災害時こそ「女性の柔軟な視点」が大事だと感じます。「日頃からの男女の垣根を超えたコミュニティ作り」こそ、いのちを守る行動である、と今回の広報誌作りを通して痛感しました。(金丸雅子)

過去の災害で公助で助かった人の割合は全体の2割と聞いて驚いた。残り8割は自助と共助、つまり自助力と地域連携で助かったということだ。自分が、地域が、いざという時にそこまで動けるのか? 地域の連携は大丈夫か? 日頃から地域の防災訓練やイベントに参加して顔見知りを増やすことが第一歩だ。(小瀬誠)

阪神・淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震と相次いで大地震が起き、自助・共助・公助の役割が再認識されている。特に自助・共助が大切で、日頃の交流が大切だと痛感した。自身は防災訓練や炊き出し訓練等に参加したことがなく、その意義の大切さを痛感した。災害は他人事ではなく、どこでも起きることを意識していきたい。(加賀谷正子)

「備えあれば、憂いなし」。日常、近所、地域の人々とのコミュニケーションも大切です。

「天災は忘れたころに、やって来る」。男女共同参画紙「そよかぜ」を読んで、自主防災に対し関心、更なる意識を持っていただけると幸いです。(吉田正之)

編集員募集中!!

男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙を作ってみませんか?

詳しくは下記の久喜市人権推進課までお問い合わせください。



◆発行/久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3 電話: 0480-22-1111 (内線2322・2325) FAX: 0480-22-3319
メールアドレス: jinken@city.kuki.lg.jp この情報紙は62,750部作成し、1部あたりの単価は4.72円です。



ぬき取って読みください。